



# 博多あん通信

発行元  
博多あん(安全)・あん(安心)リーダー会  
連絡先  
〒812-0882  
福岡市博多区麦野5丁目22番6-505号  
代表幹事 小森 勝輝

2018年(平成30年)

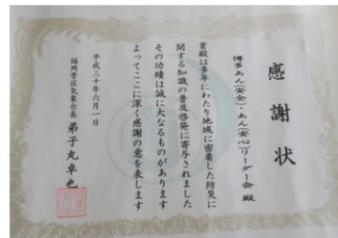
9月1日号  
<No.34>

## 13期を迎え代表幹事挨拶

成年に発足したリーダー会の12年間の歩みとは、義務教育と高校を卒業した子どもと同じく、何をしたら良いかわからない時期から多くの方に災害前の備えを伝えることで、学び・気づきをいただき、防災士個人・リーダー会として信頼を醸成し成長してきました。子どもであれば大学進学(研究)か就職(実践)かの分かれ道ですが、リーダー会も次なるステップを迎えたことに間違いありません。

市をパートナーとした会の活動で地域における信用も増し、講座の依頼は年々増加傾向です。基本的には減災をテーマに啓蒙・啓発活動が主ですが、災害発災後の対応もリーダー会として対応できるか問われることが多くなりました。

その中で福岡市は災害ボランティアの育成として、「避難所サポートチーム・福岡」の講座を開き、災害発生時にはその修了生に連絡を取り、自己責任で行動していただくと考えています。(3期生までの修了生は、全員リーダー会会員)しかし、福岡市の考えでは実践的な活動チームとして機能しないことは明らかであるため、「避難所サポートチーム・福岡」を独立した組織として立ち上げ、リーダー会として全面的に支援していきたいと思っております。しかし、現状では講座を受けただけで避難所をサポートできるスキルはありません。関係団体に協力していただき、最初は恥をかくことになるとは思いますが、実践を重ね地域に貢献できる組織を会員みんなで協力し育てていきましょう。



※6月1日福岡管区気象台より感謝状をいただきました(台長賞)

次期の新生リーダー会に向けて、今年度も“コツコツ”と減災活動を広めましょう。

(代表幹事 小森 勝輝)

## 第12回博多あん・あんリーダー会総会 研修会報告会

5月20日ビブレ本山管理組合 副理事長 稲田雅嘉様を講師に迎え、研修会を実施しました。福岡大学建築学科古賀一八教授(城南支部)の紹介にて、熊本地震で約850棟の7割以上が被災し、その中で大規模半壊という大きな被害を受けたマンションを、わずか半年で復旧工事が着工できた事例を紹介していただきました。

被災したマンションでこんな短期間での復旧工事着工ができたわけ(合意形成)とは

1. 理事会、自治会の活性、
  2. 継続的なコミュニケーション醸成活動、
  3. NPO 熊本県マンション管理組合連合会での学習と情報入手
- があげられ、震災対応がうまくいった最大の要因を一言でいうならば「日ごろのコミュニティ醸成活動が大切」であったということでした。

最後に、マンション地震対応箱 MEAS(10,584円税込)の紹介がありました。興味がある方は、以下にてご確認ください。

問合せ先：<https://www.kumakanren.jp/>



(代表幹事 小森 勝輝)

## 危ないブロック塀の見分け方講習会

6月に発生した大阪府北部地震で、高槻市の小学校のプール沿いのブロック塀が倒れ、登校中の小学生が亡くなりました。

繰り返される地震時のブロック塀倒壊による死亡事故。どのようなブロック塀が危ないのか、その見分け方講習会が開催され、29名の会員が参加しました。講師はリーダー会の会員でもある福岡大学の古賀先生。わかりやすい内容で会員の皆さんも熱心に聴講していました。以下に当日の資料を掲載します。

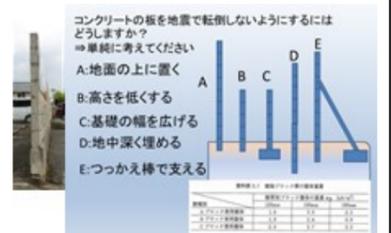
なお、福岡市では危険と判断されたブロック塀について、除却費の一部を助成する制度があります。(城南支部 牧菌 典浩)



## 危ないブロック塀の見分け方

1978年6月12日の宮城県沖地震で28名の方が亡くなりました。そのうち18名がブロック塀などの倒壊によるものです。それ以来ブロック塀の危険性が認識され、全国で様々な対策が行われてきました。しかし、2005年3月20日の西方沖地震、2016年4月14日の熊本地震でもブロック塀の下敷きで大切な命が失われました。関係者がブロック塀の耐震性に問題があるのを認識しているのになぜ対策が進まなかったのか? リスクに対する対策は次のような順序で実行されます。①リスク(危険性)の認識、②リスク(危険性)の調査、③リスク(危険性)の評価、④優先度の決定(発生確率×影響度)、⑤リスク(危険性)低減措置の決定、⑥対策の実行、⑦許容可能なリスクになったかどうかの判断 これまで行われた対策はせいぜい③止まりで、⑦まで進めたところは宮城県以外目にしません。人の命にかかわること、避難や救助時の妨げになることなので、出来ない理由を並べないで、⑦まで進めて頂きたい。

ブロック塀が地震や台風などで倒壊するかどうかの判断は、右図のように単純化して考えればわかります。A、Bが危険なことは一目瞭然ですが、Dは地上高さの1/3は地中に埋めていただきたい。CはT字形の鉄筋コンクリートの基礎を地中に埋めており、壁の重心が低く、転倒の抵抗も大きく、倒れにくくなっていることが解ります。Aの壁を倒れにくくするにはEの様に下を重くしたもので支えることで安全性が高くなります。もちろん壁との緊結が重要です。



福岡市内で最も危険性が高いブロック塀は、右の写真に示しましたように、土留めに使用する「擁壁」の上に積んだものです。擁壁の上には写真の様に基礎が地中深くに埋められず、擁壁の上にただ置いただけになり、地震時に容易に落下してくることは想像できると思います。ブロック塀の中に鉄筋が入っているかどうかは、鉄筋探査機で確認すれば外からわかりますが、写真のような「すかしブロック」を使用しているところは鉄筋がないと思ってください。最後の写真は福岡市内の通学路です。子供たちが歩いている上には危険なブロック塀が8カ所あります。どうしますか?

危険なブロック塀の補強・撤去には持ち主の認識・費用の問題が重くのしかかります。認識に関しては、行政のみならず、自治会・町内会単位で①から⑦まで強制的に進めるしかありませんが、お金がないことには持ち主は⑥は進められません。子供たちの命や災害時の避難の妨げになることなので、行政には優先順位を決めて金銭面での十分な支援をお願いします。

(城南支部 古賀 一八)



## 各支部長よりご挨拶

### ●東支部：支部長 城下 邦芳

6月9日東区市民総合防災訓練は、勝馬小学校を会場に会員20名の参加を得て、避難所活動を中心に運営に携わりました。段ボールベッドやトイレ等には、大勢の参加者が興味を示してくれました。子ども達や保護者を対象とした、母親の目線での防災の備えの講話には、他校区の方から高い関心が寄せられました。東支部は地区の皆さんの要望に、全てお応えするよう努めています。



### ●博多支部：支部長 坂之下 照雄

支部会員は26名（男性18名、女性8名）です。現在までに本年度(2018年)博多支部管轄の出前講座依頼が実施済、これから実施を含め6件来ております。他、市民総合防災訓練(博多区)の参加要請等も来ております。

1. 地域防災力の向上、2. 命を守る減災授業（防災教育推進）、3. 防災ボランティア後方支援、を目標とし、スキルアップして要請に応えられるよう取り組んでいます。

毎月第3土曜日、18時から東光公民館にて支部会を実施しています。どなたでも歓迎です。

### ●中央支部：支部長 坂井 正司

私たちの活動の中心は、やっぱり自分が住む町。住む町の特徴を知り、自助・共助による減災を目指すために、他校区の実践にも学びながら、地域防災の要となれるよう、支部団結して研鑽に努めていきます。

### ●南支部：支部長 松岡 秀幸

隔月に行っている勉強会を充実させることで、ファシリの質を上げ、メインファシリを1人で多く育てます。交代でやるのでMFの負担も少なくなり、講義の質も年々向上しています。今後は、南区版HUGを充実させ、より実践的なものとしたいと思っています。

### ●城南支部：浦野 正幸

今年度も支部会員の「地域活動に参加したい」、「防災知識を高めたい」、そして「仲間とつながりたい」の要望に応えるバランス良い活動を進めます。特に支部学習会は、時機に応じた内容を企画しており、他の支部からの参加も大歓迎です。

### ●早良支部：支部長 松本 一郎

早良支部では、DIGやHUG、クロスロード等の出前講座のほか、毎年新天町で行われる「みんなで防災」でもおなじみのロープワークも取り入れつつ、現在12名で活動を行っております。皆様方にも、出前講座等でご協力いただくことがあるかと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

### ●西支部：支部長 東島 弘

毎年大きな災害が発生しています。いつ自分のまわりで発生してもおかしくない状況です。『自分のところは大丈夫』を少しでも疑えることができる方法がないか、出前、共創の場でみなさんと考えていきたいと思っています。

## 平成30年度福岡市市民総合防災訓練(西区今津会場)

6月9日、福岡市市民総合防災訓練に参加し、西支部（避難所運営チーム福岡のメンバーも含む）は、「ゴミ袋雨合羽」と「新聞紙スリッパ」作りを担当し、地域住民の方々に作っていただきました。高島市長が、手作り雨合羽のモデルという光栄な場面も！

また、他支部メンバーにより、非常持ち出し防災グッズの展示や説明、段ボールベッドの作成があり、参加者のみならず、新米13期の私たちが先輩方から色々学ぶことができました。

今回、市民総合防災訓練に初めて参加しましたが、これまでは行政や防災関係機関が行う大規模な防災訓練という勝手なイメージでしたが、避難所開設・運営の訓練に始まり、避難所生活に役立つ知識の習得など「住民主体（住民参加型）」の本格的な防災訓練とわかり、感銘を受けるとともに「災害の多い昨今だからこそ必要な訓練だ」と実感しました。

お互いに新鮮な刺激を受けながら学びあえる環境に感謝し、今回学んだことを生かしていきたいと思っております。

(西支部 久保 千景)



(写真提供 城南支部 浦野正幸)

## トピックス ~これからの活動にご興味がある方は事務局までご連絡ください~

### \*各種講座活動状況（7月末現在）

<出前講座>	実施講座数	10回	予定3回	計13回
<地域活動アドバイザー>	実施講座数	11回	予定5回	計16回
<防災教育アドバイザー>	実施講座数	1回		
<単独事業>	実施講座数	8回	予定4回	計12回

### \*市民総合防災訓練

6月9日（土）西区 今津運動公園 避難所運営、段ボールベッド作成指導 他

\*「避難所サポートチーム福岡」養成講座 3期修了生 21名 修了生総数61名

\*博多あん・あん塾（14期）開講 8月25日（土）～10月27日（土） 福岡市防災センター

\*福岡市防災キャンプ 9月1日（土） 中央区 舞鶴公園

\*避難所サポートチーム福岡修了生研修会

9月9日（日）福岡県NPOボランティアセンター（博多区吉塚）

\*中央区安全安心フェア 10月27日（土） 中央区九電記念体育館

(事務局長 平山 光典)

### 編集後記

平成30年度広報部長を務めることになりました東支部の陣内圀弘です。

今年度の広報担当の皆様を紹介いたします。

(東支部) 平井幸雄、(博多支部) 松村秀豊、(中央支部) 小田ゆう子、坂井正司、

(南支部) 菅原佳子、(城南支部) 牧菌典浩、(西支部) 東島弘、久保千景

の9名です。構成は、博多支部の篠原京子さんをお願いしています。

博多あん・あん通信に関して要望等がありましたら広報担当者にご連絡ください。

宜しく願い致します。

広報部長 陣内 圀弘 (東支部)

